



会長挨拶

九州大学大学院教授

河野 昭彦

福岡県建築鉄骨協議会は創立 10 周年を迎えることになりました。これは産官学の皆様の惜しみないご協力のお陰でございまして、心より御礼申し上げます。

この協議会創立の発端は、平成 14 年に工業組合福岡県鉄構工業会の中野盛行氏（現専務理事）の発案にあります。同氏は、当時工業会の理事長であった一口孝道氏と共に、私と濱田敬二氏（現日本建築構造技術者協会（JSCA）九州支部顧問）を集めて、次の提案をされました。つまり、「建築鉄骨の品質向上を目指したいが、それには、建築鉄骨の関係団体、行政機関及び研究者の協力が必要である。工業会の立場から、工業会を広く理解してもらおうと同時に様々な御意見を頂戴できれば建築鉄骨の品質向上に直結すると思う。そのために、産官学が協議をする場を作ってはどうか」というものでした。私と濱田氏は即座に賛成し、協議会創立へ向けて話し合いを始めました。協議会創立に当たって多くの方々に変前向きなご協力を賜りました。改めて、御礼申し上げます。

さて、協議会で非常に多岐にわたる話題について協議して参りました。数々の講義の中でも記憶に残りますのは、2005 年の福岡県西方沖地震の被害調査で協議会創立 3 年目のことでした。被害が最も激しかったのは玄界島、警固や今泉地区の建物も相応の被害を受けました。この時、産官学の協力体制が極めてうまく機能し、これによって初動調査、応急危険度判定、被害悉皆調査、玄界島等の復興が成功裡に行われたと思っています。また、市内に倒壊寸前の RC マンションがあり、周囲への二次災害が懸念されましたので JSCA の方々と（株）増田組さんがボランティアで応急処置をされました。大きな余震が来ましたが、見事に倒壊は防がれました。また、2003 年には福岡県のファブリケーターから鉄骨 2 階建自社事務所を実大実験に供したいという申し出があり、日本鉄鋼連盟九州地区サブネットワークが主催し、尾宮洋一氏（現鹿島建設、JSCA 九州支部顧問）が中心となり、JSCA の方々、九州の各大学、及び工業会の方々が共同で作業を行いました。結果を冊子にまとめ、協議会で発表されました。改めて建築鉄骨の長所と品質管理の重要性を検証することができました。さらに鉄鋼メーカー（新日鐵住金、日鉄建材）の方には景気と連動して上下する鉄骨価格などの最新情報をご提供いただきました。産官学がこれを共有し事態が深刻な時に疑心暗鬼にならずに済んだのではないかと考えています。

私は 10 年間、会長を務めさせていただきましたが、2014 年度より津田恵吾会長（北九州市立大学）、尾宮洋一副会長の新体制が発足します。

皆様には、今後共、新体制の協議会の継続、発展のために益々のご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、会長挨拶に代えさせていただきます。